

「音楽は一生の友」 伝える活動



全国生涯学習音楽指導員協議会茨城支部代表

とも つね きよ み
友常清美さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ No.223

音楽が大好きで、幼い頃から習い始めたピアノを生涯の仕事に選びました。ピアノ教室で生徒を育成する一方、全国生涯学習音楽指導員協議会の茨城支部代表を務め、音楽普及に尽力している、石岡市にお住まいの友常清美さんにインタビューします。

自信を育む 小さな達成感

小美玉市羽鳥地区で生まれ育った友常さんは、4歳の頃、母親の勧めでピアノ教室に通い始めました。「ピアノ教室が大好きでした」と友常さん。小学6年生からはミニバスケットボールにも打ち込み、仲間と過ごす日々の中で体を動かす楽しさも知りました。

音楽の道を志し、ヤマハ音楽教室で講師を経験。その後、結婚を機に自宅でピアノ教室を開き、指導を続けてきました。現在は教室でのレッスンに加え、保育園や幼稚園でのリトミック指導、合唱団の伴奏、そして茨城県での生涯学習音楽指導員として、音楽の活動の幅を広げています。

友常さんとみの〜れの出会いは、開館前にまで遡りま

す。生まれ育った美野里町に素敵なホールができる聞き、ずっと楽しみにしていたそうです。開館以来、森のホールでのピアノ教室の発表会を一年半ごとに開催しています。

みの〜れの魅力について友常さんは「スタインウェイを弾けること、ホールがとてもきれいなこと、立地の良さ、そして住民が集える場所になっっていること」を挙げます。ホールという鑑賞の場という印象が強い中で、みの〜れは住民が主体となって活動し、企画し、関わり合いながら場をつくっています。「これってすごいことだと思いませんか。そんな雰囲気があるからこそ、またみの〜れを利用したいと思える場所になっっている」と友常さん。

「美野里町出身者として、みの〜れがあることが誇らしいです。いいまちだなと改めて思います」。

企画するのが好きだという友常さんは、これまでさまざまな音楽企画をプロデュースしてきました。「いろいろなジャンルの演奏を聴いてもらいたい」。そんな思いから、音楽と料理を組み合わせた企画などに取り組んできました。日々アンテナを張りながら、新しい可能性を探っています。

「音楽は一生の友だと思っています」。演奏すること、聴くことも、すべての感覚を使う体験。小さな達成感を積み重ねることで、子どもたちは自信を育んでいきます。指導者として大切にしているのは、積み重ねること。「練習は嘘をつかない」。日々の積み重ねが力になることを、子どもたちに伝え続けています。

音楽を通して子どもたちを育てながら、地域の中で「音楽は一生の友」と思える活動が広がることを願っています。

(藤田佐知子)